

グループホーム鈴蘭とがめユニット

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	事業所としての共通理念を掲げており、その理念 に向けて各ユニットごとにより具体化するための 理念をつくり上げている。	○	今後も、理念と実践を振り返りながら検 討を重ねていく。また、地域密着型とし ての役割を再度見直しながら事業所の役 割なども明確にしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	ケース会議時などに、理念に沿ったケアが出来て いるか振り返っている。 ホーム内の目に届く所に掲示して意識している		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族については、ホーム内に掲示しているもの を確認していただいたり、事業所便りなどを通じ て理解を図っている。地域住民については運営推 進会議等の利用により理解をしていただくように 取り組んでいる。	○	今後は、地域で開催される会議等に参加 し啓発活動などをしていながら理解を さらに深めていくための取り組みをして いく
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	立地条件等もありなかなか困難な状況があるが、 近隣施設等の連携や、ショッピング外出等を通じ て出来るだけ交流する機会を作っている。	○	運営推進会議などの活用により、もう少 し地域との交流が持てるようにしてい きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	近隣地域の行事（花見や運動会等）や地元で行わ れる行事などに参加し、地域の人との関係が途絶 えないようにしている。		地域行事を把握し、今以上に参加の機会 を増やしたい。誰でも気軽によれるよ うな雰囲気を作っていきたい

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	スタッフについては、研修等を通じて専門的な勉強を実施している。運営推進会議等を通じて地域の状況把握や認知症ケアについての相談等を受けている。	○ 今後は、地域で開催される会議等に参加し啓発活動や介護者教室なども開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の内容を振り返り、改善に向けての話し合いを行い取り組んでいる。自己評価を職員全員で取り組むことにより改善点などを振り返ることが出来た。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的（2ヶ月に1回）に開催し、その中で外部評価の結果等について報告している。また、地域住民からの意見や相談等についても検討しながらサービスの質の向上に向けた取り組みを実施している。	○ 運営推進会議を通じて、今後より地域とのネットワーク作りに取り組んでいきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の事業所同士で組織する連絡協議会等を通じて情報の共有を図っている。また、実習等の受け入れや勉強会等の開催により連携を図っている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人単位の勉強会と、事業所単位の勉強会の実施により理解を深めている。個別的に必要な方については、面会時などに必要な情報の提供をその都度行っている。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段のケアの場面やケース会議等で情報を共有しながら事前に注意を図り、防止に努めている。	○ 今後も勉強会等を通じて更なる理解を深めていきたい。

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際について、重要事項説明書を基に時間を掛けて説明を行っている。特に利用料金や、入居基準等については詳細に説明を行い納得しやすいように心がけている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者の代表者を定めて、出来るだけ利用者の意向が反映されるようにしている。日々の中ではケース記録をその都度記入したり、要望・意見ノートを作成して出来るだけ意見等が反映できるようにしている。	○ ご利用者と関わる時間を多くとりながら、意見を聞くようにしていきたい。また、今後はご利用者同士が意見等を気軽に発言できるような機会を設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りにて近況報告を担当ごとに行っている。また面会に来られた際には、ケース記録と金銭出納帳を確認して頂いている。健康状態の変化などについては、その都度ご家族の方と連絡を取り合っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関口に意見箱等を設置したり、定期的な便りにて機会を設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議の時に、意見等を発言出来る機会もあり、なるべく職員の提案を聞くようにしている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や研修等は、なるべくたくさんの職員で対応出来るよう調整を行っている。	

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく利用者に影響ないように配慮を行い、異動してからも顔を出したりして変化のないよう努めている。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修を法人の年間計画にいれ、実施している。それぞれの事業所で内部研修を実施、質の向上を図っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の意見交換が出来るような会議を、年数回の設けて参加している。	○ 今後も同業者との交流の機会を通じ情報の共有化を図ったり、研修の場として活用していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフのストレスを出来るだけ解消するために、個別面接を行い悩みや相談事などを聞き取る機会を設けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けて一部わかっているが、研修・勉強会の実施、各面接時に働きかけを行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、生活状況を把握するようつとめ、ご本人の求めている事や、不安を理解しようと、工夫している。	

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居契約の段階で、個人情報に配慮しながら関係機関とも連携を図り情報の収集に努めている。また、家族の考えや要望などを時間をかけて聞いている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医や地域のケアマネジャー等と連携を図りながら関係機関との連携を図り柔軟な支援が出来るように心がけている。必要の際は他のサービス機関を紹介するなどしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用者が不安にならないよう、ご家族や、それまで関わってきた関係者にも協力を依頼して安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑作業や家事などの場面において、ご利用者と一緒に作業する場を設け、色々な事を教えてもらったりしている。現在は畑での野菜収穫を楽しんでいる。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	入退院や特変時にその都度連携を図っている。誕生会等の行事への参加について呼びかけを行い、共に過ごしていただけるような機会を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入退院や特変時にその都度連携を図っている。誕生会など行事への参加について呼びかけを行い、共に過ごしていただけるような機会を作っている。		

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や買い物など、一人ひとりのご希望を確認し、これまでの生活習慣を尊重するように心がけている。近隣集落での花見や運動会への参加を行事に取り入れ、馴染みの方々との交流が図れるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係が円滑になるようスタッフが調整役となって支援している。馴染みのご利用者同士が気軽にくつろげるような雰囲気作りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の継続的な関わりについて、居宅介護支援事業所や介護保険施設等との連携を図るようにしている。	○	居宅介護支援事業所との連絡会への参加などにより、現状以上に連携を図って行きたい
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族からの情報を共有化し、個人の趣味や特技を活かせるように支援している。支援方法についてはケース会議やミーティング等で随時検討するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報を共有化し、個人の趣味や特技を活かせるように支援している。支援方法についてはミーティング等で検討するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活の中での気づいたことを、スタッフ間で情報のやり取りを行っている。その日の出来事はケース記録に記入、情報の共有化につなげている		

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者レベルでの介護計画は実施できているが、ご家族の参加までは至っていない現状がある。	○	家族の意見も聞くようにしているが、参加については難しい現状にある。今後は家族にも参加を依頼し、意見、要望を反映した介護計画の作成に努めたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なミーティングの開催により現状を把握し、必要に応じて、計画書の見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にその都度記入し、申し送りやミーティング等情報を共有している。また、支援方法については随時検討するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望に応じて柔軟に対応できるよう今後検討を進めたい。	○	関係機関とも連携を図り社会資源の開発や把握に努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議の開催時など関係機関との連携を図るようにしている。総合防災訓練時に消防署や駐在所などのと協力しながら連携を図っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご利用者の希望により、訪問理美容サービスや併設事業所でのマッサージ（あんま）等を利用している。	○	ご利用者の状況や希望に応じて柔軟に対応している。関係機関と連携を図り今後も社会資源の開発に努めたい。

グループホーム鈴蘭とがめユニット

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等を通じて権利擁護についての勉強会や事例検討会を実施している。運営推進会議をきっかけに連携が強化されるようになった。	○	今後も連携を図りながら実践していきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望を確認し、適切な医療が受けられるようにしている。受診については、スタッフで対応している。状況の報告等についてはご家族と連携をとりながら実施している。	○	ご利用者の状態と希望を確認、安心した生活が送れるよう今後もご家族、医療機関との連携を図りたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との連携を密に図り、専門医療機関への受診も実施している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	病院受診時など看護師とも連携を図るように心がけている。介護の方法や栄養についてなど気軽に相談できている。また併設施設との連携をとりながら、緊急時等についても対応できる体制を整えている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時についてはご利用者が安心して生活できるように情報提供を行い、頻繁に職員が見舞いに行っている。入院中についてもご家族との情報交換をしながら退院後の生活について検討している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約の段階で、事業所が対応しえる最大のケアについてご家族と話している。	○	ご利用者・ご家族の希望を尊重しながら、主治医との連携を密に図り検討していきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご利用者、ご家族の気持ちを尊重し、ケアについてはスタッフ間で連携をとりながら随時検討している、また急変時には併設施設や協力医療機関を中心にすぐに対応出来るような体制をとっている。		

グループホーム鈴蘭とがめユニット

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	環境が変わっても生活が継続できるように、支援 内容や注意事項等を記載した情報提供表の活用 により連携を図るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	ケース会議や、内部研修などを利用し、日々のケ アを振り返りながら意識付けを行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	担当を中心に希望や好みを把握し、ケース会議で 情報を共有している。意思表示の困難な利用者 については複数の選択肢を提案したり、ご家族と も連携を図り馴染みの物等について確認するよ うにしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切にし、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	基本的な一日の流れは決まっているが、時間の過 ごし方については自由である。ご利用者の気持 ちを尊重しより個別性のある支援に心がけてい る。また、一人ひとりの状態や思いを大切にし ながら柔軟にケアしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	ご利用者の好みや個別的な身だしなみが出来る ように配慮している。理美容等については、馴染 みの美容室を利用していただけよう外出の支援 を行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの変更については、ご利用者の希望を尊 重し柔軟に変更している。また、出前などの希望 も自由である。準備、後片付けは、ご利用者の体 調や気持ちをみながら一緒に取り組んでいる。今 年の4月からは同じものを一緒に食べるようにし た。	○	今後も、ご利用者の希望を随時確認しメ ニューの変更については柔軟に対応して いきたい。食材の一部には畑で取れた野 菜を使用、収穫の楽しみを味わって いただけるよう取り組んでいる。

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者一人ひとりの嗜好品が理解できるようケース会議、ミーティング等でスタッフ間の情報を共有するようにしている。買い物等の希望についても、日課などを柔軟に調整、個別的な支援についても努力している。	○	今後ご利用者の体調と希望を配慮し、柔軟に対応して行きたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要の際は排泄チェック表を使用し時間や習慣を把握するようにしている。ケース会議、ミーティング等で情報を共有、支援方法等について検討している。オムツの使用、オムツの変更については、専門家の意見も取り入れ検討している。	○	プライバシーに配慮した支援を継続する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴計画（入浴予定）をたてているが、ご希望については柔軟に変更、支援している。入浴嫌いのご利用者については、安心感などに配慮しスタッフ間で随時検討するようにしている。	○	入浴の困難な場合は清拭等で対応している。ご利用者の希望と体調を考慮し今後も柔軟に対応したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促す手段として、散歩などの希望を確認、随時支援するように心がけている。一人ひとりの体調や希望に考慮し、起床時間などは自由である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体調や希望を確認しながら、お願いできる仕事は頼み、一緒に行くように心がけている。ご利用者の希望を考慮し、味噌作りやチマキ作りなど、昔懐かしい作業を行事に取り入れるようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者、ご家族の希望を確認し、基本的には事務所で管理しているが、自分で管理したいと希望されるご利用者もある。	○	今後ご利用者の希望を尊重し柔軟に対応して行きたい。スタッフ間で情報を共有し状況が確認できるようにしている。

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいない項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事等の計画作成については、ご利用者の意見や希望を確認してから計画するようにしている。買い物やドライブなど個別的な外出希望についてもできるだけ対応するようにしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠い場所への外出については難しい現状にあるが、近隣の市町村については、ご利用者の希望を確認し可能な限り支援するようにしている。場合によってはご家族とも連携を図り協力を依頼することもある。	○	ご利用者の希望を確認、より個別的な外出ができるよう支援している。また、遠距離への外出については、事前に計画をたてるなどして柔軟に対応して行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については親機と子機を準備、居室でも通話できるようプライバシーに配慮している。年賀状、手紙などについてはご利用者の希望を確認、代筆支援を行う場合もある。月1回は（鈴蘭便り）を発行、ホームでの生活状況を報告、ご家族との連携に努めている。	○	ご利用者の希望に応じてその都度対応している。プライバシーに配慮した支援を継続したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室で気軽に話しなどができるように、椅子などのセッティングやお茶等の準備で気軽に話が出来る、雰囲気作りを配慮している。また雰囲気作りについてはご利用者、ご家族の意見も取り入れるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護や身体拘束については、ケース会議やミーティングでケアを振り返る様に心がけている。また運営推進会議や内部研修等で勉強会を実施し正しく理解できるように取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の居室については、ご利用者の希望個所に限り施錠している。また、防犯や室温調整の観点から一部（玄関口等）を施錠している。その他の箇所については定期的に巡視をするなどして安全面に配慮しながら不安の解消にも努めている。		

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシー保護の観点からも所在や様子を把握する方法についてはケース会議、ミーティング等で随時検討するようにしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者一人ひとりの希望や状態を把握しながら安全面にも配慮している。危険性等を顧慮し保管場所についても検討している。希望に応じて柔軟に対応、支援している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握、ケース会議、ミーティング、内部研修等で定期的に勉強会を実施、情報を共有し事故防止に配慮した支援に心がけている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ケース会議、内部研修等で定期的に勉強会を行っている。緊急対応時においては、主治医、スタッフ、併設事業所と連携が図れるように協力を依頼。ヒヤリハットノートを作成し、事故防止について随時検討するようにしている。	○ 今後の取り組みとして各専門職に講師を依頼、より専門的な研修についても計画中である。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の総合防災訓練を実施。行政関係者や消防署、地域の消防団にも協力を依頼している。また、併設施設のスタッフにも協力を依頼しご利用者とともに訓練を行っている。	○ 今後は運営推進会議等を利用しながら近隣の地域住民の方への協力についてもはたらきかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	一人ひとりの状態を把握、スタッフ間でも常に情報を共有するようにしている。ご利用者、ご家族のご希望を確認、支援方法等については事前にリスクについて説明し同意を得るようにしている。	

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ご利用者の状態を把握、食欲不振、顔色などからも体調の変化に気づけるよう早期発見に努めている。異常を確認するとスタッフ間で情報を共有、管理者への報告と必要の際は主治医の指示を仰ぐようにしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内部研修による勉強会を実施。内服薬が変更となった際はミーティング等で変更内容を確認、情報を共有するようにしている。常に状態を把握し、異常の際は主治医と連携を図るようにしている。薬の管理はスタッフで行い、服薬についてはその都度確認するようにしている。	○ 薬の変更はご利用者に大きな不安をあたえる場合があるため、今後も主治医からの指示を把握し不安の解消に向けたケアが出来るようにしていきたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便について確認、記録することで情報を共有している。フルーツ類やヨーグルトなど健康に良いとされる物を多く用いたり、食材やメニューについても工夫するように心がけている。運動の働きかけについても配慮し出来るだけ自然排便に取り組んでいる。必要の際は主治医に報告、指示を仰いでいる	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の声かけと見守りの実施、必要の際は介助による支援を行っている。義歯のご利用者については就寝前に洗浄剤を使用。ご利用者の気持ちに配慮し支援方法等については随時検討するようにしている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを配慮し好きな物を美味しく食べて頂けるよう努めている。ご利用者の希望とスタッフのアイデアを取りまとめメニューを作成し、栄養士にもアドバイスをいただいている。食事、水分の摂取量については記録表にて把握し必要の際は主治医に状況を報告、指示を仰ぐように	○ 今後ご利用者の希望を聞きながら柔軟に変更しながら一人ひとりの状態に応じた工夫していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策についてのマニュアルを作成、また、内部研修等で勉強会を実施している。清潔に心がけ、問題の早期発見と予防について随時検討している。	

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	漂白剤なども使用し常に清潔に努めている。食材については賞味期限などを随時確認し新鮮な食材での調理を実践している。また調理した物をすぐに食べていただけるような工夫も行っている。スタッフについては月1回は検便を実施し衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターの花などを置き明るい雰囲気作り、季節感を演出できるように工夫している。プランターの花作りについては、ご利用者にも協力を依頼、共同作業による花も展示している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の希望を尊重できるように、常に検討するように心がけている。フロアの飾りや家具等の配置は大きく変更しないよう不安の解消に配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	通常のテーブル以外にもソファや和室を配置し馴染みのご利用者同士が気軽に過ごせるような雰囲気作りに努めている。季節によっては中庭にベンチを設置、夕涼みなどが出来るように配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者ご家族の希望を尊重し、タンスなど馴染みのものを自由に使用していただいている。また、新たに購入する場合も希望を確認、レイアウトについても確認してから行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご利用者の体調と希望を確認し、室温等についてはその都度調整している。		

グループホーム鈴蘭とがめユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	ご利用者の状態把握に努め希望を確認するよう にしている。テーブルや椅子、家具等の配置につ いて検討しながら変更については随時対応してい る。	○	今後もより個別的な支援が出来るよう努 力していきたい。ご利用の希望と体調を 考慮し安心して生活していただけるよう な雰囲気作りについて検討を続けたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	担当を中心にご利用者の状況を把握、希望を確認 するようにしている。より個別的な支援が出来る ようにケース会議やミーティング等で検討してい る。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	花を植えたり畑で野菜を育てたり、より家庭的な 雰囲気作りに努めている。季節によっては中庭を 利用、ソーメン流し、焼肉などを行い、その季節 を感じていただけるように心がけている。	○	今後ご利用者の希望を確認しながら新 たな行事にも取り組んで行きたい。転倒 防止、車椅子での移動に配慮した支援を 継続していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	② ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	① ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、介護保険施設と障がい者施設が併設されており、ひとつのコロニーを形勢している。ご利用者の生活については出来るだけ、閉鎖的にならないように、様々な取り組みを行っている。併設施設との交流の機会も多くあり、法人単位で行う夏祭りなどについては地域住民の方々の多くの参加があり交流が持てている。普段の暮らしでも出来るだけ『自由な雰囲気』で買い物や外出などが出来るように心がけている。スタッフについても法人の理念の『礼をもって接するとともに、温もりのある空間を提供します』ということを意識しながら日々のケアを行っている。また、ご利用者・ご家族が安心して暮らせるために、認知症ケアについての専門的な勉強会などにも力を入れている。今後もグループホームでの暮らしが充実できるように、季節をご利用の方やご家族とともに感じながら共に暮らしていきたいと思っています。